

御旅籠大払

日雇方旅籠共 本陣江大払

御勘定御宿

以後ハ脇本陣江申付候事、左候ハてハ不申納

錢壳 日雇旅籠并本陣旅籠共

ノ四両計

御着大早く手引案内、正四ツ時可参筈ニ取極候事

御献上物ハ先振ニ相見合、都合いたし候事

右之通相勤申候

九月廿二日 鶴沼 赤坂

一筑州様御隠居 御上り

御髮計 御泊り

百疋 御め録

本陣入 廿一人

嘉永五年子正月五日

正月晦日

一長崎御祈願所

皓台寺様 御上り

御目録 五拾疋

外 四百文 不残酒出シ申候付御手当

御旅籠 式百四拾八文ツ、

御上下 七人 本陣入、上老人、次三人、下三人

御先触之趣左之通

御朱印長持 壹棹 此人足四人

御拝領長柄 壹棹 此人足六人

長棒壹挺

垂駕籠壹挺

両掛式箱

合羽駕籠式

竹馬一

乗掛壹駄

駄荷馬一

右者御寺御代替りニ付 御目見として御下り被遊、其節御上り当宿

御泊りニ御座候、以上

嘉永五年子二月十六日

一下有知村 名古屋より日帰り之節

龍泰寺様

御上汰丈様 壹人

御旅籠

役増四人

外壹人 御領

ノ五人

御旅籠

一金百疋

御茶代

五日前ニ名古屋江御出府、右日限御帰り之節御泊り

御乗物 壹挺

長持ち 壹棹

兩掛

外 用意駕籠壹挺

右者七日前御先触内見いたし、召使藤次郎を以、下有知村迄御昼休并ニ御泊り共願出候、尤先年文化十一戌二月十六日私方御泊りニ付、右由緒を以申達候付、御約束ニ付少勢ニて御座候共、泊り之儀ニ有之候付、其他江御頼申上候旨被仰付候

嘉永五年子閏二月十七日 御嶽 鷄沼 加納

御老中

一内藤紀伊守様 御昼休

御目録 銀壹枚 代金三分ニ

御献上物 忍冬酒 五合入壹ツ

是ニ金百疋頂戴仕候

是者御先例茂有之哉旨御尋有之候付、先例と申候而者一たん差上申候処、当時御情略中ニ付御断り旨申上候得共、犬山名産ニ付何れ者御方様江も差上申候旨申上候得ハ、左様之儀なれハ御請申候旨被仰付候而、前頭之通献上料頂戴仕候

一御本陣入 御旅籠 十七人 百三拾文ツ、御約束之処

是ハ当日御約束ニ而分払之処、

三人様ノ廿人 百三拾式文ツ、

外 分払 五人

一膳めし 拾七八人

一陸尺頭共ノ 拾六人

是ハ 不残酒出シ申候

一御下宿 御馬 四疋

御附人ハ当日約束付膳めし

此賄式人分ニ御払

外 御下宿ハ壹軒茂無御座候

尾州様御出張御役人

太田替り水野代官

一一色兵馬様 御宿 岩井や

御上下三人

外 内供壹人

山本豊治様

人馬方

太田陣屋手代

一岸上七左衛門様 岩井や

太田御同心衆

一山田伊八郎様 同

是ハ宿内御先払茂□□取、見付江市六前桜井倅迎

一往還方 山田や

手代調役式人 是ハ三日以前ニ御出被成候

同心 六人

御注進差出候□

一御城江 壹通

一御月番御年寄衆様御屋敷へ

一御勘定所江 壹通

一往還方御役所江

一犬山御用人衆中江 壹通

是ハ直紙しよし式ツ折しいたし、日光列幣使ニ注進御通り

一御通行以前ニ往還方より御触参り候付、五日以前よりいたし置候

得ハ宜敷候得共、火急ニハ間ニ合不申、至而六ツヶ敷事

一水野御代官出張所、東町高札前ニ四角ニ式疊敷計砂まき置事

一見附前ハ御使者仕立置候処不様ニ相成候付、重而御通行之節ハ高

札前ニいたし置事

一宿内掃除之儀ハ家々ニ壹荷ツ、盛砂いたし、壹荷ハ壹包見□入前

ニまき候事、尤外宿ニおゐてハ、小使かめニ青葉杉ニ而困何□い

たし、明家敷ニハ夫々垣何□□いわせ候間、当宿之儀も重而之節

ハ右同様取計候事

一御宿割五日前ニ御出立、其節御閑札御渡し被遊候、其節人馬賃錢

御払、大払之事◎

兩ニ六貫七百文宿相場之処、兩ニ六貫五百文仕切ニいたし候

御上下 七人 内 上三人、次三人、下壹人

御宿割様之御昼旅籠御払之事被進候、尤其節茶代として三

百文被下置候

一人足 五百拾式人

馬 五拾疋 乘馬

内三百八拾式人 遣払候分

馬三拾式疋 残而 三拾八人 残り

拾式疋

右之通岸上様并ニ水野御手代衆江書上候事

右之通無故障相勤申候

嘉永五年子閏二月廿四日 御嶽 加納

一松平肥前守様 上り 御昼

御目錄 白銀式枚

此代 壹両壹分式朱ト三匁五分

御本陣入 御旅籠之分 五六人

此御方ハ御用人中并ニ御白銀被下候御方ニ御座候付、別段御

叮嚀ニいたし候分、尤高膳ニ而飯台ニ而出し候事

御六尺 廿五人

御膳めし 三拾人計

ノ六拾人計り用意、尤少々是ニ而残り申候

御宿割四人 上式人、下式人

是ハ前日之事

問屋場江御宿割様より金百疋被下置候

御下宿 六軒 但シ馬宿共

御旅籠 百文ツ、

一御宿割様江下宿帳壹冊、御取揚手控壹冊、ノ式冊入用

一本陣絵図面入用ニなし

一表茶道方見附前ニ立、茶吞茶碗極上拾人前、土餅五ツ、五徳附火

鉢五ツ、火箸添共

一奥茶道方茶吞茶碗拾人前、土餅式ツ、火鉢五徳共式ツ、ノ入用

一人馬賃錢当日大払之事

一人馬寄立 百五拾人

馬 三拾疋 入用

一御関札壹枚 門前ニ立候事

右之通無故障相勤申候

嘉永五年三月三日子

肥後御番頭

細久手

一小山門喜様

鶴沼

御目錄 百疋

赤坂

是ハ御節句ニ付御上下共不残酒出シ申候付、前頭之通御め録

頂戴仕候

御上下九人

上老人 式百五拾文ツ、

次八人 式百三拾式文ツ、

日雇 なし

右之通無故障相勤申候

嘉永五年子三月十八日

一黒田甲斐守 下り 御昼休

合渡 鶴沼 御嶽

御目錄

并 若殿様 御同々ニ而

御目錄

御旅籠 廿五人

内 九人 若殿様付 御老人ニ付 百拾式文ツ、

膳めし 拾六人

陸尺衆 廿四人

内 拾人ハ若殿様付

六拾五人用意

御宿割様 上下四人 先年より老人増し

是ハ前日御出之事、尤人馬賃錢大払ニ而、前日宿割方より払

一御下宿なし

御馬式疋 御約束なし

右之通故障無御座候様相勤申候

前頭同日之事

黒田甲斐守様 下り 御泊り

并ニ 若殿様共

御め録 壹両 御泊ニ付

壹分 御休ニ付

一御下宿拾三軒

一日雇油紙 拾軒陸尺共

一御旅籠 上式百廿文

下 式百文

一帳場旅籠 百六拾五文ツ、

一帳場錢入用 五両 是ハ野口や、桜井、丸一や

一御乗馬 式疋 山田や文吾

一御旅籠本陣下宿共御名々払之事

一錢両ニ六貫五百五拾人文

御台子之間入用 行灯 七丁

燭台 拾丁

手燭 七丁

御台所入用 なし

御関札 壹枚

是ハ門前ニ立

当御□□

桜井吉兵衛印

嘉永五年四月十四日 上り 御嶽泊

一因州様御家老 う沼休

津田伊織様 加納泊

御旅籠之分 拾老入 上分 百貳拾四文ツ、

八人 六尺老入ニ付四拾八文ツ、

外ニ 又三拾貳文ツ、茂有

八人 膳めし有

金百疋 御宿料

御台所立申候

木札ニ而門ニ懸ケ札有之候、日雇之甚右衛門ヲ、太田迄昼休之義

ヲ引ニ遣し申候 当御本□□

四月十四日 桜井吉兵衛印

嘉永五子五月朔日 四月晦日 大久手泊り

一細川山城守様 下り方 五月朔日 う沼泊り

御国許 肥後宇土

金壹両 御宿料

式拾五人御本陣入

内拾七人大払

八人帳場払

下宿共大払之分者上下共

老入ニ付貳百廿四文ツ、

帳場之分者

老入ニ付百四拾文ツ、

御馬宿私し方江打込ニ相成申候、

但馬貳疋

人五人大払

外ニ人三人帳場払

御取揚共ニ風呂ば 三本立テ

〔右人数（前入也）より者分払ニ而式人相増し申候〕

駕 七挺馬荷拾三駄本陣江入

前日ニ御宿割上式人、下老入御越し被成候、此方ハ人馬駄ちん

并大払被遊候、御旅籠之大払も此方より被遊候、宿割之処者下

割計、御当ニ本宿割御越し御見分之事、上り帳者入不申候

札宿 拾壹軒

油紙宿 六軒

但帳ば共

米相場百文ニ付白米九合五勺貳分

内方之日雇 男人 沢右衛門

女人 犬山あんな

内家内之者并召仕拾式人有る

御□□

桜井吉兵衛①

半時ニ当宿御越し被成候、御立者誠ニ御早立ニ御座候

嘉永五子年五月朔日 四月晦日 細久手泊
一京都御町奉行 う沼泊

右之通ニ而相勤メ申候

同年四月廿四日

一水戸様御茶壺 御登り

金貳百疋 御目録

但御旅籠共

御上下拾人

風呂三本立申候

内老本者別客ニ持ゆる

御上老人様

御若党様 貳人

草り取 貳人

荷才領 老入

外ニ三百文御茶代

御先荷茂御持被成候、駄荷七駄、長持三棹、引戸老丁分持貳荷、此丈先荷御持被成候

但御宿割被遊候 御□□ 桜井吉兵衛

嘉永五子年五月八日 太田宿御泊

一松平越中守様 う沼宿小休

御登り 加納宿御昼休

御目録 三百疋

御支度 六尺衆

貳拾人 老入ニ付十六七文ツ、

内四人者伝棒

此者六尺之竹馬持

太田宿六ツ時御出立、当宿江五ツ時ニ御着之事、先番者曉七ツ

子年五月十六日

一水戸様御茶壺 下り 御泊り

御目録 貳百疋

御旅籠共拾人

外ニ銀三匁頂戴仕候

但 此者行も上り

老入相増申候間、右老入之御旅籠代如此

嘉永五子五月十七日

京都御町奉行

一浅野中務少輔様 御登り

五月十六日 細久手宿泊

同 十七日 伏見宿御昼

同 同 う沼宿泊り

金百疋 御目錄

御本陣入人数之覺

上三人 壺人ニ付四百文ツ、

中拾貳人 同 貳百文ツ、

下拾人 同 百三拾貳文ツ、

右三口 貳拾五人 本陣入之分

外ニ 脇本陣入

上三人 壺人ニ付四百文ツ、

中拾貳人 同 貳百文ツ、

下拾人 同 百三拾貳文ツ、

外ニ 貳拾五人

此外ニ下宿 拾壺軒 内貳軒者札宿之事

御旅こ之義者大弘之事

私し方風呂四本立申候、但御取湯共、内壺本者隠居家、別之御客

ヲ入候事

私し方日雇之義者、勘兵衛女房ヲ壺人ヲやとい申候

内之者拾壺人

出役四人 円四郎、五郎兵衛、善七、和助

人ノ拾六人ニ而相勤メ

御所用御座候

太田御代官

東条七四郎様 宿 山田や

御上下四人

内壺人者御手代衆

高瀬祝三郎様之事

但御重こんやうニ相成申候

五月廿二日

一戸田采女正様 御下り

御国立 鶴沼泊り

御め録 金壺兩貳分也

御本陣入 廿五人 内四人御旅籠

外四人朝茶漬有之

御旅籠上分 貳百文ツ、

下之分 百八拾八文ツ、

日雇油紙 百四拾六文ツ、

御札宿廿三軒

是ハ六七人より三人迄、但シ下分ニ置候得ハ、拾人より廿人

位迄

日雇五軒

仕済 ノ廿八軒入用

御旅籠当日賄方より大弘、尤御賄御役人様ハ宿御下宿之事、入

用金五六兩御買上之事

油紙帳場入用 錢六兩

野口、丸一、桜井ニ而納申候

兩ニ六貫五百五拾人帳

御□□分

兩ニ六貫五百三拾貳人之極

米兩ニ壹刻 七〇かへ

白百人ニ付九合五勺

人馬賃錢前日御宿割より御払之事

上下五人 内壹人帳場

人馬 三拾五人

貳拾六疋

本陣内込 馬宿

人数拾三人

馬五疋

草履り取宿 六人

外 三人 日雇

本陣入 四拾三人 是ハ隱居屋共宿仕候

表番所

裏番所 共ノ入用ヲ以之事

番所ニ 草履貳足入用

御庭口壹足入用

手燭六本

燭台五本

行灯三拾丁

右之通無故障相勤申候

嘉永五子年九月十五日

一永井肥前守様 御泊り

御宿兩 金壹兩

細久手泊り
う沼宿泊り

御風呂は四本

取湯 新湯殿 中湯殿 ニハ

御本陣入人数

中間宿打込ニ而

貳拾四人 内六人ハ帳ば払

又五人ハ御膳所 □旅ご

残而 札宿 五軒

油紙宿 七軒

兩ニ六五ツ、但帳場共 貳兩 本陣

帳場錢五兩買上 壹兩貳分問屋

壹兩貳分問屋

御宿割三人前々日御越し被成候、御旅籠壹人ニ付貳百四拾八

文ツ、但御上下共

下宿書上ヶ帳老冊入用、旅籠御め々払之事

右之通ニ而相勤申候、以上

八月二日

長崎奉行

一大澤豊後守様 御登り

御め録 貳百疋

御本陣入 四拾四人

御旅籠 上老 貳人 貳人 貳人

次通 百八拾文ツ、

御下宿 拾八軒

油紙 日雇共

牽馬老正 下通貳人 貳人

日雇 下通百三拾貳文ツ、

御旅籠日雇共 本陣ニおゐて大払 当日

此〇五兩計

人馬 賃払御宿割様より大払

此〇五兩壹分計

拾匁三分也

御着□□

馬宿本陣内込之事

右之通無故障相勤申候

九月廿一日

一飛州郡代 御登り

福王三郎兵衛様 御泊

金百疋 御め録

同五拾疋 御幕料

御本陣入 拾九人 上老 三百文

中通 百五拾文

通 百拾貳文ツ、

馬老正 貳人 貳人 貳人 貳人 貳人

一御下宿貳軒之処老軒ニいたし

此以後御通行之処ハ皆々本陣江内込候而もくるしからす事

錢売旅籠共 壹兩貳分計

右之通相勤申候

右郡代ニ附り

御本陣入

貳拾四人

内訳 上老 貳人 貳人

次七人 百四拾八文ツ、

下七人 百拾貳文ツ、

外ニ

帳場打込候分

此六人者帳場之事 六人 百四拾八文ツ、

打込 弁当 三人 同

同 馬老正 貳人 貳人

下宿三軒

上払 御手代衆三人 めうかや重助

帳場 六尺 六人 立花や健二郎

同 手廻 拾老 河内や嘉右衛門

右上払老 人ニ付百五拾文ツ、膳場払老 人ニ付百拾貳文ツ、

人数惣ノ四拾四人

外ニ馬老正

錢相場六貫五百文立

御風呂三本 取湯 中湯殿 にわ

老人ニ付米ハ三合当ニたき候事

御旅籠ハ御手代衆宿より大払之事、日雇払ハ長場より大払之事
重而もふちうとたと打込候節者、風呂ヲふやす事

下川辺泊ニ而大杉屋ノウ沼宿御泊り、当宿江御着ハ、暮六ツ少々
前ニ御ちやく被遊候

嘉永六年丑二月ヨリ

嘉永六年丑二月廿七日 御嶽 鶴沼 加納

一 大本願上人様 御昼休

是者信州善光寺、江戸御住居御座候

金百疋 御め録

御旅籠分百文ツ、

御本陣入 三拾三人

御六尺 八人

是者膳めし

下宿用意ニ不及候、御泊リニ而者下宿六軒

御問屋場江 □録四百文 御め録

御宿割壹ヶ月前ニ御出被成候事、尤御上下三人御老人ニ付

貳百文ツ、下式人百六十四文ツ、

御関札壹枚門前ニ立

人馬 貳拾五人、馬拾六疋

外ニ添貳拾人

ノ四拾五人

一 先例之通、宿役人交之宿別十□ニ而御けちミやく壹枚ツ、唯ニ
而被下候

御宿割支度御約束之儀ハ用意ニ不及、当日御先番御老人御越被遊
候間、右へ御尋申上候而用意可致事

ノ一太田・名古屋 御注進之事

右之通故障なく相勤申候

嘉永六年丑三月十二日泊り 大湫宿

和州初瀬寺 鶴沼宿 御泊り

一小池坊権僧正様

御め録 貳百疋

御献上料金貳朱

外ニ風呂敷大 壹ツ

御本陣入拾八人

内 御賄勘定用人老人 三百文

御出家様三人 御進心ニ御座候

御侍向ハ急用意

「御献上物ハ蜂屋柿貳拾五疋ハ」

此人拾四人 是者手廻り并ニ御僧向侍分

御下宿貳軒 内 拾人 陸尺

拾人 先手廻り

〔書入れ〕 御旅籠 御上下共貳百文ツ、
御下宿日雇 百五拾文ツ、

御台所用意立申候

〔^{書入れ}無摠儀ニ御座候付、此度御入来之節ハ宜敷品沢山用意事〕

御注進ニ不及事

人馬 馬三疋、人足貳拾五人

先払羽袴兩人

御旅籠・人足日雇共 当日大払之事

□用ニ而壹兩計り

右之通故少なく相勤申候

嘉永六丑三月十三日下り泊り

京都からす丸通大丸屋旦那

一下村正太郎様 関ヶ原、鶴沼宿

御上下八人

内

上 壹人 五百文

次 壹人 三百文

下 六人 壹貫貳百文

壹人付貳百文ツ、

御目録 百疋

右勤向ハ上下共酒肴、但シ宿之儀ハ上下共各□へ壹本ツ、御

茶□茂上下共壹盆ツ、

右御触面拜見いたし候故、まつ助加納迄引ニ遣シ申候、都合よろしき事

右之通無故障相勤申候

四月十日

一大坂御藏奉行

水品権十郎様 脇本陣

御上下六人

右者重而御泊り之節ハ、本陣ニ而相勤可申事、尤御所用として鈴村様御出張被成候、全体御代官様御出之筈之処、御□□ニ付御手代様御出被成候事

嘉永六年四月十四日

一小幡孫兵衛様 御泊り

御用人角々

芸州様

同勢貳拾人

内 八人上分、十二人下分

上分 貳百四拾八文ツ、

下分 百五拾六文ツ、

御目録ハなし

風呂新湯殿 にハ風呂 〆式本

嘉永六年四月十五日 大久手

一芸州様 御泊り う沼

御用人

中井惣衛様

御同勢拾五人

内 七人上分

御旅こ貳百五十文ツ、

八人下分 百六拾四文ツ、

風呂貳本 にハと并新湯殿

右之通目録なし

四月十六日 大久手

一芸州様 鶴沼

梶川角左衛門様

御上下貳拾人

内 八人 上分 貳百四十八文ツ、

日雇 十貳人 百六十四文ツ、

弁当なし

右之通故障無御座候

四月十八日

一芸州様 大久手

御家老 鶴沼宿

浅野若狭様

御上下五拾人

御め録百疋

外ニ四百文 御手当

御上老入 五百文

御馬老疋 五百文

御次通 廿老入 貳百五拾文ツ、

下宿 貳軒 本陣内込

内 拾人、拾貳人

日雇百五拾六文ツ、

右之通大久手宿迄迎甚右衛門遣シ、無故障相濟被仰付候、故障無御座相勤申候

一薩州様 細久手 鶴沼

御先女中 御泊り

御目録 三百疋

御本陣入 三拾七人

内 上女中 七人 貳百八拾文ツ、

中女中 十人 貳百六十四文ツ、

下女中 四人 貳百廿四文ツ、

内御先◎拾六人 貳百文ツ、

〔是者外番おゐてハ貳百疋又ハ百疋従之砌ニ御座候、

下拙方ハ格別御叮嚀ニいたし候間如此〕

是ハ犬山ニ而注文いたし色まんちう

御献上 御上様江 貳重

数六十

右料上在てたばこ 御広敷御用人様

沢山被下置候、手 数三十

掛式拾挾袋壺ツ 御宿取下勘定方江

数三十

御下宿 札宿三軒

九人 脇本陣

十人 河内や

十三人しまや

御油紙 八軒

旅籠 百四拾六文

御先触 人足 拾三人

馬 拾三疋

梶原清左衛門 御触出候事

右御先触ハ御昼割旨迄有之、尤御本陣触ニ而御通行之事

風呂 四本

湯外沢山く之事

右之通無故障相勤申候

嘉永六丑年五月三日

一松平内蔵頭様 御昼休

備前様事

金壺両式歩 御目錄

金百疋 御献上料

但シ此時之献上品ハ大鯉壺枚并庄が少し、右此後御通行之節者用意致置、早々差上可申候事

膳めし 壺 出し

御旅籠之分ハ 式拾五人 壺人ニ付八拾文ツ、

外ニ五六人茂まし有

〔但シ生魚ニ限り御献上品致置候、尤代料ハ式朱より多

迄之入ニ御座候〕

下宿六軒 東問屋 河内屋

梅屋 平三郎

松嶋屋 重助

立花屋

六尺宿壺軒 御本陣吉兵衛隱居宅

御ぬけ道掛り下宿壺軒

書 入 れ

八軒 拾人中ツ、茂御座候

六尺宿ハ私シ方隱居家ニ而相勤メ申候、但此茂御旅籠御払被

下候、壺人ニ付八拾文ツ、

六尺衆拾九人前御支度

〔右梅屋佐兵衛之義ハ人数三拾人御座候、御ぬけ

道掛りニ御座候〕

御関札壺枚 此ハ門前ニ立申候

此ハ三日前ニ御渡シ可被下候、此御役人より人馬賃錢茂御払被成候

御宿割者前日ニ拾九人御越し被成候、御昼支度茂御座候、先年御御通行之節者、老人ニ付四拾八文ツ、茂御弘被下候、此度之義ハ四文茂御弘無御座候間、此後御通行之節ハ、至而籠末之膳部ニ而よろしく御座候

御目見村中村神主木全藤太夫、上下式人三百文、御茶代塩なし式本、右之通被下置候、隠居ニ替北之間ニ而、御昼支差上申候、酒茂中酒ニ而差上申候、此神主之義ハ小牧村近へんニ御座候、以上

一御道具触参り候得ハ、其通蒙一用意致置事
道具沢山入用之事

嘉永六丑年

一鍋嶋甲斐守様 御泊

高五万石 御在所遠地

御目録 金老両

御本陣入式拾老人

御馬宿打込申候

馬式疋

人六人 内老人ハ帳場弘

御馬屋之座敷ハ見付并同前ト、式間ニ而宜敷御座候

御旅こ之義ハ、老人ニ付 式百四拾文ツ、

右御殿様御台所江 大鯛老枚 代式文位

あわび老 式百文位

外ニ色々御尋御座候得共品々間ニ合兼候付、差上兼候間、

此後御通行之節ハ沢山用意事

一御次通江急

大うなぎ蒲焼并ニ肴いろく御注文ニ酒五六升入用意之事右ハ先年御通行之節茂、右振合之通入用之趣記録ニ御座候付、用意致置候処、此度茂入用ニ御座候間、右之通印置申候

右之通無御故障相勤申候、以上

嘉永六年丑五月六日

一伊達遠江守様 御泊り

御目録 式両

御旅籠 百九拾式文ツ、

日雇 百六十八文ツ、

御下宿 式拾三軒

内 馬宿 老軒本陣内込隠居江

米両ニ七斗老升替 自節

御関札并ニ御宿先列之通前日之事

御台所入用 魚 大鮎三枚

あハび 式□い

鯉 老本

外ニ青物いろく

此御殿様魚類ニ而御献上仕候得ハ納申候、尤外ニ休泊ニおるても、沢山魚類献上いたし候様事ニ御座候

御台子入用道具

台子 壹飾

紛□ 沢山

手燭 五本

燭台 五本

行灯 五丁

内 壹丁 御上□向

小火鉢 五徳付 壹ツ

湯殿路□熨共入用

御本陣絵図面

右通御書付ニ相調御渡し相成候□々入用ニ御座候

一御殿様一番触と御膳と一所ニ御座候間、前以用ヲ心いたし置、

尤至而御早立ニ御座候間、昼夜ハねいりこなし相勤申候事、此儀

初忘之事

右之通無故障相勤申候

五月九日下り

一永井肥前守様 御昼休

金百疋 御目録

御旅籠 拾式人前 百文ツ、

御陸尺 拾人

外ニ 小差五人計

膳めし 五六人

右ハ前々日小倉新五郎、小幡与太夫兩人方江向、書面ヲ以願書ニ

相出し候得ハ、列年之通差掛り頼申候事と、覚書ニ御座候

右通故障なく相勤申候

嘉永六丑五月十三日

一薩州中将様 御昼休

御目録 銀三枚 此金貳兩ト百四文

御膳めし 六七拾人計

但 上分 三拾人計

陸尺 拾八人計

拾五六人 台所済

御下宿 四軒 内 馬宿 三軒

馬廻り貳軒

家老 壹軒

御宿割 上式人一酒肴

次三人一酒肴

下式人一なし

ノ七人

是者前日御関札御役人□共

御当日前夜ニ追こし 十式人

内 御台役人七人

日雇 三人

御旅方 上下式人 是者当日日本陣方宿内一才、御役人向御目録

諸事御取扱之御方ニ御座候

一青銅六拾疋

是ハ 問屋兩人

年寄り四人

御旅方 御手札差出し候処如此御取扱

一金百疋 問屋場ニ

此者 会所付御役人人馬方より御差出しニ相成申候

一金百疋 太田分附人馬方 鈴木政吉

先列之通被下置申候

一御献上物納申候

鮎十五 新生か 是者代料

生菊らげ 式朱計り

新なす 仕入申候

杉な

ノ五品

一金百疋 御献上料

是者先列ハ請不申事ニ御座候得共、此度之儀ハ若殿初登り之儀

ニ御座候付請候間、重而ハ御無用之事旨被 仰付候得共、御請

御座候

前日追越し候御方ハ、至而延刻ニ相成申候

右之通故障なく相勤申候

嘉永六年五月十五日 河渡 伏見

一牧野豊前守様 次下り

差掛り御小休屋被 仰付候、尤先番御方早朝御出被成候

御目錄百疋

御旅籠 百文ツ、 拾八人計

膳めし 十人計

御陸尺人拾人

御馬三疋 半飼疋疋ニ付 五拾文ツ、

御別当 六人膳めし

右御殿様列年之通御登り之節ハ御泊り、下り之節ハ差掛り御昼休

急度被仰付候間、前日より除掃仕候事、追々可致事

右之通故障なく相勤申候

嘉永六丑年五月廿二日 う沼宿

一有馬日向守様

御小休屋

加納宿御泊

御嶽宿御泊

金式朱 御目錄

金百疋 献上料

献上品者鯉式疋トウぐい式疋、なすび拾疋

錢ニし而ハ四百四拾八文計之者ニ御座候

御昼支 三拾八人計

内 拾八人 御旅籠之分

御老人ニ付百文ツ、

九人 膳めし

八人 六尺頭

尤御差懸りニ御座候間、加納宿迄書状ヲ以、人足之幸七ヲ御泊

迄差立申候、重而御通行之時茂、右之振合ニ而御勤メ候事

米七升たき候処、五合計之処残り申候

本陣心得ニ而用意仕候

〔御陸尺拾三人 膳めし

れ 外ニ 膳めし 三拾人計

御拝領分 四疋 本陣入

入 口取參人 旅籠 百文ツ、

書 外ニ 五人膳めし

〔御関札 弍枚 西 茗荷や新屋表

東 甚藏表

是者前々日三人御出申候

〔^(御入札)めし 壺斗五升煎申候、五升程残り〕

御宿割 上式人

手附 次式人

下中間四人

ノ 八人

是者前日御出之事

御下宿打込ニ而弍拾壺軒 御旅籠百文ツ、

上り方ニ付

御目錄壺両式分 問屋場江

内 壺両ハ 助郷江遣シ

式分ハ 宿方江

是茂先例之通

御使并ニ人馬方御出張無御座候

一御台所入用

かほ□ 壺ツ 百文

鯉 壺本 弍朱

右御買上ニ相成申候

右之通無故障相勤申候

嘉永六六月十三日

一稲葉長門守様 御昼休

御国許 錠拾万石

御目錄 銀壺枚 此金式分式朱ト◎三百文

御旅籠なし

膳めし 六尺共 三拾人程

御下宿御馬宿計

御宿割前々日ニ御越被成候、尤人馬賃錢御払被成候

右之通故障なく相勤申候

嘉永六年丑七月六日

一小笠原左衛門佐様 大久手宿

越州勝山城主 鶴沼宿

御目錄 三百疋

金五拾疋

是者尾張様より御使無御座候得共、其段本陣より申通候由仰聞候間、其段申上候処、御返書旨茂有之、右御礼として前頭之通

五拾疋被下置候、以上

御下宿拾貳軒 内三軒ハ人少ニ付内込申候

油紙五軒 但帳場共

御旅籠 御上分 三百文ツ、

御次通 貳百四拾八文ツ、

日雇 百六十四文ツ、

御旅籠当年ハ大払之事 先年記ハ後々払

御宿割前日老人様御越被成候、尤御先荷才領也、一諸ニ御出被成候事

右御殿様之儀ハ先本陣触参り候ニ付、別段先触ハなし、尤人馬触ハ前日位ニ相見江申候

一此御殿様御儀ハ御省略中、并ニ 公儀御忌中ニ付、御使者御取扱無御座候付、其儀左衛門様江本陣より申達候様被仰聞候付、其段奉申上候候^{マシ}処、右御返書之写左之通

乍恐御達ヲ申上候御事

今般 小笠原左衛門様御登り御通行ニ御座候処、昨六日夜当宿御泊りニ付而ハ、御使者茂可被為 有候処、御省略中之儀且 公儀御忌中之儀ニ付、其儀無御座候付申上候処、右御答ニ者御申達之段、左衛門佐へ申達候処、被入為御念候御儀難有承知被致候、付而ハ右御礼も可申上之処、旅中之儀ニ付当其許より可然御筋江申達具候様被仰聞候、依而手札壹枚御渡相成候付御渡し相成候、手札壹枚相添、御達奉申上候、以上

小笠原左衛門佐内

石井 三蔵

丑七月六日

鶴沼宿 本陣

桜井吉兵衛

本間初三郎様 御陣屋

石井様より被下置候、尤是者御祐筆より申事

一金式朱

右為 取扱御礼ニ被下置候ニ付印置候、以上

右之通無故障相動相動申候

長崎御奉行様御宿割、前日ニ上下五人御越シ被遊候、尤上老人さむらい供三人之事、上り帳ハ入不申候、御荷物之義ハ分持、四荷丸棒壹挺馬荷壹駄、右之通御本陣入ニ御座候

御下宿御見聞ハ無御座候、荷物宿河内屋、嶋屋トニ而相動申候、御本陣座敷間□之覚、御上段御上御老人、二ノ間ハあきニ相成申候、三ノ間ハ医師、納戸、近習、取次、右四枚張置キ候事、八条之間御家老、御用人、西座敷御小姓、二元料之間者御右筆、見付坊主三村前、棹ぞり取新料之間、料り人板之間、勝上段勝手元ノ六十の間元ノ下役三世之間、惣供扨間、惣供割座敷ニ相成申候
右之通り御座敷之割ニ相成候

御当日之分

長崎御奉行様

嘉永六丑八月二日

一水野筑後守 御泊

泊 大久手 泊 う沼宿

関ヶ原宿

金五拾疋 献上料

同式百疋 御茶代

御本陣入人数ハ三拾九人、風呂ば取湯共四本相立申候、所役四人、外ニ内やといど甚右衛門、おちか右衛門やとい申候

御使者 本間初三郎様

御宿之義ハ久吾方ニ而相勤メ申候

御使者之義ハ御重こんやいニ相成申候

人馬寄方之義ハ当日 共前日之七ツ時寄ニ相寄申候

人足七百人中并馬式拾七疋計相寄申候、但当日分、御宿割之日ニ相寄、人馬者人足百七拾人、馬拾式疋計寄申候

嘉永六丑十月十七日

飛驒御郡代

一福王三郎兵衛様 御昼休

御茶代 四百文

御上御老人様 百文

御次通し拾四人様分 御老人ニ付七十二文ツ、御払被下候

嘉永六年丑十一月六日

一越後新発田 大久手

御家老 鶴沼

溝口半左衛門様 御かね百疋

御上下廿式人

御旅籠前夜□□

右之通無故障相勤申候

嘉永七寅二月より

三月九日 大井

一山門執行代 鶴沼

恵□□様

附り合客之儀ハ宜敷候間、御殿ニ之間、三之間、玄関与入用、外へ可入申候

御上下九人

御目錄 百疋

御旅籠 御上 三百文

御次 式百文ツ々

御触面ハ 人足廿人計

馬 式疋

右御荷物ハ先払付而、宿口御迎ニ而茂有之候得共、御膳様ハ出家、尤茂御役増ニ御座候

右ハ善光寺廻りニ而御登ニ付、前頭之通無故障相勤申候

嘉永七寅三月廿日

一松平土佐守様 御泊り

御目錄 金千式百疋

献上料 金百疋 □□式本、あわび式十石

御下宿札宿 八拾五軒

内 拾八九軒打込

外ニ 油紙 拾八軒

家老油紙 五軒

家老并ニ家中高馬 五疋、宿 三軒

行灯 貳拾五丁

本陣 廿

番所 貳ヶ割

先記録之儀ハ三ヶ所用意之処、壹ヶ所ハ不用

屏風 沢山ニ入用

御旅籠 上分 百八拾四文 是者当日極ニ相成、至而延着ニ付

不都合ニ御座候

油紙 百六拾文ツ、

御宿割様并ニ御関札共、前日御入込ニ相成申候

御上壹人 是者肴酒共出し

御次五人 是者酒肴出し

下通拾人 是者酒計り出し

十六人 御旅籠 貳百貳拾四文ツ、

御所用聞者無仕ニ付、為仰渡候趣取扱方左ニ

右為御目録 三百疋□□

乍恐御達奉申上候事

松平土佐守様今廿日当宿御泊付、所御代官衆御所用御承りとして罷可出苦之処、御省略中其儀無之候付、兼而被 仰渡候趣、其節御役

人中江申達候付、右節ニハ御申述之段 土佐守江申達候処、御念被為入候御儀難有致 承知、其筋江御達候儀ハ猶其許より可然頼入杯様被 仰聞候、仍之而手札壹枚相添御達奉申上候、以上

松平六左衛門

安積清右衛門

鶴沼宿

御本陣

寅三月廿一日

桜井吉兵衛

須加井重五郎様 御陣屋

右之通無故障相勤申候

三月廿一日 下り

一薩州様 小休

御女中方

御目録 五拾疋

六尺衆 拾八人支度 三十式文ツ、

三之間、茶之間辺 十式人計支度

右迎中与引ニ遣シ申候付如此、右無故障相勤申す候

嘉永七寅三月廿一日 初而江戸登り

一岩田鍬三郎様 小休

金五拾疋 御め録

陸尺支度なし

御殿向より御次通夫々江茶計り出し申候

右之通無故障相勤申候

三月廿三日 赤坂 太田

一松平佐渡守様 小休

御め録 五拾疋

陸尺 十式人支度

右ハ差掛り被 仰付候、御小休ニ御座候

右之通無故障相勤申候

三月廿五日□

垂井

一京極老岐守様 御下り 鶴沼

讚州多度津一万石

御め録 金三百疋

一御献上ハ相濟候ニ付あわび、かまほこ少々差上申候処、御献

上料ハ無御座候

御旅籠上下共 式百四十文ツ、

油紙 九軒入用 旅籠百六十文ツ、

御下宿九軒札宿

御宿割御上下四人

右之内三人分差上申候ニ付、下宿旅籠百三十式文ツ、成申候

右御宿割之儀ハ前日ニ御出被成候、尤人馬賃錢大払、御宿割より払

帳ハ◎ うり 五兩入用三割

右御殿様おゐて候ハ、御見江被 仰付候事

御台所御買上之代、少々御座候

右之通無故障相勤申候

四月十三日御昼休

美江寺

一酒井修理太夫様

下り う沼

御嶽

是者若州小浜城主拾万三千石余

御め録 式百疋

御下宿なし 但シ御馬宿共なし

一御関札役人様五人

是者五日前ニ御出被成候、尤御昼休之儀、御関札役人様より被

仰付候

一御宿割御上下七人

沢山前日御出之事、尤前顯関札役并ニ御宿割様共酒出しニ不及

候事、尤茶漬等も皿なし、可成丈ハ下直ニ取扱ひ用意之事、御

宿江付雇人之儀、内人数ニ而取賄ひ候事

米壺斗壺升焼

平六拾人前用意

何れ茂一膳めし用意事、旅籠段願出候、尤不相叶候事

右御殿様之儀大損くく之事

四月十八日

御嶽宿

京禁裏御附

加納宿

一大久保彦左衛門様 御昼休

金五拾疋 御め録

金百疋 献上料

是ハ忍冬酒五合入 壺坪

右献上之儀御断之処、先例森川様御通行之節も御献上被指上候間
此段申上候処、御受納被下□置候間、重而御通行之節も御断ニハ
候得共、先例之分事々可申上事相心得候

御上様三人 百五拾文ツ、

御次通六人 八拾文ツ、

同 拾人 八拾文ツ、

六尺 六人 十六文ツ、

御下宿なし

御嶽宿間継 周左衛門差遣シ申候

御払百七拾人

人足寄 四百五拾人

馬 十八疋

右ハ細久手宿鶴沼宿之処、禁裏御殿お□ニ付俄ニ御急キニ付、御
嶽、加納等御早め相成、小田井宿より大津迄三日之御早めニ御座
候、

右之通無故障相勤申候

宿御迎上下兩人

先払 上下式人、次拾式人

太田陣屋役人出張なし

一津輕越中守様

御家老 山田登様

外ニ式人様御同家中

金百疋 め録

尤是者献上式合坪壺ツ、

□□壺丁ノ献上料共

御上下拾九人 内 御上様 四百文

御次通 貳百五拾文

下通 貳百文

日雇 百七十式文ツ、

御上様者御宿様ハ酒出し申候

御馬なし

右御方々ハ合客勝手次第事

人足拾式人

本馬拾疋

右之通無故障相勤申候

四月廿七日

一柳川様

二之家老 立花主計様

御め録 五拾疋

御献上料 壺朱

右御品ハ菓子三度計り八寸ニ相盛候、割はし附

御上下拾七人様

内 三百文 上壺人

弘前

式百五拾文 次通十六人

日雇十八人 宿老軒 百六拾文

右御触面拜見いたし候節、早行利左衛門迎ニ遣し候処、宿検見之上取極申候間、先江可參候旨之事、御着之上直様取極申候

無故障相勤申候

嘉永七四月廿八日 赤坂 太田

一小笠原左衛門佐様 小休

御目録 五拾疋

陸尺 八人 茶漬

右ハ当日御先番之御方様御出被下、沢山御約束之事

右無故障相勤申候

四月廿八日 大井

一城州 鵜沼

八幡宮様 御上下七人

右ハ御献上仕候処、三匆菓子御上下共酒出し申候付、金五拾疋被

下置候

御旅籠 上壺人 式百五拾文

次六人 百五拾文ツ、

右之通無故障相勤申候

五月朔日 上り 大湫

一肥後御用人様 鵜沼

平野常之助様

御目録 五拾疋

御上下 拾八人

内 式人上、十六人 次通

御旅籠御上下共 式百三拾式文ツ、

日雇宿老軒 本陣内込拾壺人

旅籠百七拾式文ツ、

御馬壺疋 本陣入

式人前払 御附壺人

右ハ大湫保之長右衛門方より差図ニ而御越被遊候、不触知ら

右之通故障相勤申候

五月朔日

一大坂銅座詰

野村八郎様

御上下七人 上式人 式百文ツ、

次通六人 百五拾文ツ、

金五拾疋 茶代

右之通故障相勤申候

五月朔日

一大坂銅座詰

西川住之助様

永井知之助様

御上下四人 上式人 貳百文ツ、

次式人 百五拾文

金壹朱 御茶代

右之通故障なく相勤申候

五月十二日 細久手

一柳川様御家老 鶴沼

佐野八兵衛様

御上下廿式人

内 拾人 御上江御次通

拾式人 日雇方

御旅籠貳百五拾八文、日雇へ百七拾貳文ツ、御目録なし

右之通相勤申候

五月十三日 御昼休日向延岡 御嶽

一木下備中守様 加納

御目録五拾疋

御六尺 拾式人

御旅籠膳めし共なし

右之通無故障相勤申候

五月十四日 垂井

一京都大仏 鶴沼

妙法院宮様御内

御上下拾六人

内訳 御上三人 貳百文ツ、

次通四人 百五拾文ツ、

下通四人 百五拾文ツ、

陸尺六人 百五十文ツ、

為御目録并ニ献上料 金百疋

右ハ御着之節八寸ニ菓子森立、并ニ鮎^{（徳）}老蓋献上

但代金儀ハ 老刃計菓子、式刃五分鮎老蓋

長棒 式挺 長持式棹

垂か籠 老挺 馬荷三駄

右之通無故障相勤申候、以上

五月十六日登り 御嶽 加納

一彦根様 御昼休

御女中

御め録 五拾疋

御女中拾五人 御旅籠百四拾文ツ、

御役人百九人 同断百廿四文ツ、

外ニ 御役人五人計り

是者御約束なし、差掛り御尋候付旅籠百文ツ、

御宿取様御式人様 三百文御引揚ニ相成申候

右之通無故障相勤申候

五月十八日登り 大久手

一因州御家老 鵜沼

鵜殿藤助様

御目録 貳百疋

御献上料 五拾疋

但シ忍冬酒五合入老ツ

御本陣入廿人

御下宿札宿三軒

内老軒ハ本陣内込

御本陣入廿八人

日雇宿八軒

御旅籠 上分 貳百八拾文ツ、

日雇 百五拾文

御馬なし

御台所立申候

御台子入用 是ハ二之間ニ立申候

右之通無故障相勤申候

五月十八日 垂井

一土井能登守様 鵜沼

御女中 御上下 拾八人

御め録なし

御旅籠 三百文ツ、

御下宿なし 不残弁当付

右ハ御先触 人足廿八人

本馬貳疋

大野家中

何之誰兵衛之印有之候事

尤御女中何旨等印ハ無之候故、五六ハ前々右御先触至有之□候

後ニ迎ヘニ出候事故、若跡触之相成哉事難計候故、五日前ニハ

迎出置候事、尤先年ハ六日程前ニ御出之事

右ハ同日因州様御家老御泊リニ付、脇本陣江案内いたし候事

五月廿二日定列先年通

一土井能登守様 御下り

御目録 壹両

御本陣入 上分 廿六人

下分 十式人

但シ日雇旅籠

御札宿拾八軒

内 三軒計内込

御旅籠 貳百文ツ、

油紙之儀ハ札宿之内江名々内込ニ相成申候故、帳ハ日雇宿

なし

日雇旅籠 百六拾四文ツ、

是ハ日雇方名々より相払申候付、少々高直ニ相成候而ハ□間

敷候

右御殿様儀至而御用多ニ付、家内ニ而ハ不行届、雇人左ニ相印置候

御徒同宿之儀者至而六ツ敷候、本陣迄之事、当年儀者内替之迷惑仕候付留置申候、尤本雇之儀も右同断

勤之者 手代壺人 円三郎

下女 三人

屋口 壺人

下男 式人

馬指 式人

雇人 久右衛門

二兵衛

甚右衛門

ノ拾式人

御宿割拾日前御出事 上下五人

右之通無故障相勤申候

五月廿四日 赤坂

一松平豊前守様 鶴沼

御印物

御朱印

御同勢廿四人 内 上壺人 四百文

次式人 六百文

下拾人 式百五拾文ツ、

日雇十壺人 百五拾文ツ、

御目錄青銅五拾疋

御献上料式朱 右ニ忍冬酒壺合入壺ツ

右ニ付御先触之儀ノ壺馬壺疋、輕尻壺疋ニ而、豊前守内何之誰旨相印御朱印、并ニ御口物之趣受ニ無御座候、是ニ依之而、此以後も左之通相心得候事

五月廿七日

一水戸様 大湫

御茶壺 鶴沼

御目錄 百疋

御旅籠 百疋

御上下九人様

外ニ壺人

右ハ別段御壺人様之儀者、壺匁五分ツ、被下置候、尤是者別格、下拙より右之段不申上居候、後ハ尚更ニ相成候間、此段出不申候節ハ、無遠慮可申上候事

但シ当年之儀ハ御壺□□之分ニ候哉、列年式釣リ之処壺釣リニ御座候、尤先触ハ五月十七日者有之候処、同月廿七日迄延引ニ相勤申候、右外一向相替候儀ハ無御座候ニ付、如此印置

右之通無故障相勤申候

嘉永七寅六月五日 垂井

一膳所 鶴沼

御米印

御印丸

御附添

御用人 加藤左太夫様

外ニ 御式方 様

御目録 五拾疋

五拾疋

金百疋

御同勢廿九人

内 御上様 三人 式百五拾文

次通 十四人 式百文ツ、

日雇 十式人 百六十四文ツ、

人馬触之写

人足 六人

馬 三疋

但シ 右御触之儀 御朱印共 御印物共なし、加藤左太夫様相
印有之候

右之通無故障相勤申候

嘉永七寅六月七日

肥後一家老 小休 太田

一有吉頼母様 御登り 美江寺

御目録百疋

右ハ御献上者仕、其上并ニ御嶽宿迄御迎江遣シ申候付、外宿々

与ハ相違、別段取計ニ御座候、尤先触ハ御嶽鶴沼与申事故、

右何之分□有之候付

御六尺九人 支度用意

御座敷ハ向ハ火鉢、茶たはこ盆のみ用意

御献上之儀ハ、犬山忍冬酒五合入壺ッ差上申候

右之通無故障相勤申候

嘉永七年寅五月十五六日頃

一長岡監物様 御昼休

并ニ 此御苗字之儀ハ御拝料、米村ハ先代より持寄

米村丹下様

同 久太郎様

御め録 五拾疋

御献上料 百疋

御支度儀ハ御上様計 三人分 式百五拾文ツ、

御台所立不申候

御次向ハ昼支度 十人計り

陸尺 十五人

右ハ御嶽宿迄文左衛門飛脚差上、御昼之儀願出申候

御馬三疋 本陣入

代少々

右之通無故障相勤申候

嘉永七寅六月十日

一肥後御番頭

高見権右衛門様

御目錄 五拾疋

御上 廿壹人

内 上貳人 三百文ツ、

次十九人 貳百五拾文

御馬 壹疋 六百廿兩也

口附貳人 昼飼付

御下宿 貳軒 尤少々、やかましく事ニ御座候、是も時之時

入ニ御座候

本陣内込 百六十四文ツ、

御献上仕候処、献料ハなし

御宿取ハ日雇頭ニ御座候、尤右客を叮嚀ニいたし候事

右之通無故障相勤申候

七月九日

伊予大州 高六万石

一加藤於兔三郎様

御朱印

御献上仕候処一節料なし

御目錄五拾疋

御同勢四拾人

内 上 五人 三百文ツ、

次通 十四人 貳百五十文ツ、

日雇 十六人 百六十四文ツ、

右内十六人ハ日雇之儀ニ御座候付、御下宿之事故、重而御下

宿申付事

一御宿取江◎三百文引揚ニ御座候

右之通無故障相勤申候

七月朔日

豊前国 赤坂

一中川修理太夫様 鶴沼

御朱印

御め録 銀四匁五分

御献上 銀四匁五分

御上下三拾人

御旅籠 上分 貳百四拾壹文

次通 貳百十六文ツ、

日雇 百六十四文ツ、

右御方ハ御本陣触ニハ御座候得共、外宿入候様義御座候付、重而御通行之節ハ必迎可出候事、此後通行之節ハ、此人江ハ献上

不致候事

右之通無故障相勤申候

七月四日

越州御番頭 大久手 鶴沼

一酒井波門様

御め録 百疋

御本陣入 廿一人

御献上仕候得共料ハなし

御旅籠 上分 十一人 三百文ツ、

御次通十一人 貳百五拾文ツ、

御馬 壹疋 貳人旅籠御断

日雇 四人 取ノ

御献上ニ菓子折壹ツ、玉あられ箱入壹ツ、迎ハ友蔵途中迄差出し申候

右之通無故障相勤申候

寅七月十二日

嘉永七年

一御普請奉行 御昼休

石谷因幡守様

御め録 五拾疋

御献上料 金壹朱

御上様 三人

御次通 九人

下通 十八

御六尺 若旦那様并奥方様

ノ十式人

外ニ棒頭御馬共ノ 十八人

御馬なし

右御殿様御儀ハ、前渡村領内嘉兵衛様者御親類之儀ニ御座候間、夫故本陣江御入込御座候、以上

右之通無故障相勤申候

八月朔日昼

長崎奉行

一荒尾石見守様 御昼休

御め録 五拾疋

御献上料 五拾疋

是者献上物御戻しニ而、前頭之通御挨拶ニ預り申候

御本陣入 七拾人計り

御馬宿共、尤右内江御上様も入込候事 馬貳疋

右之通御宿割様より被仰付候

右之通無故障相勤申候

八月九日夕

江州大森御陣屋

一屋代増助様 御泊り

御奥方様

〔金五拾疋 御献上料并ニ御め録共ノ

尤右之儀献上不致共五拾疋ハ被下置候事

〔式（御入也）五五分献上料〕

書入 御上様 貳人 貳百文

御手代 御上下三人 百五拾文

〔次通 七人 同断

右之通無故障相勤申候

嘉永七寅八月十一日

一 芸州御用人 御上り 大久手

掘田均之助様 鶴沼

列之通め録なし

御上通 七人

日雇方 九人

十六人

上旅籠式百文ンツ、下御雇方百五拾六文

右之通無故障相勤申候

嘉永七寅八月十二日 美衛寺

一六条御殿御内 鶴沼宿

下間治部 太様御姫君

富貴君姫様 御下り

旅籠代 御上様 壺人 五匁

同 御次通 御用人以下

十式人内三人女中 式匁五分ツ、

同 御下通 十九人 式匁ツ、

御本陣入 三拾式人 内壺人引揚

日雇宿 三軒 内 九人 六尺

十五人 帳場

十四人 □人

旅籠 百五拾文ツ、

御台所立不申候

御宿割三日前ニ御出被成候、御上下式人、昼通ニ御出候事

一 御め録 百疋

一 御献上料 右ニなし 九ツ

柿 七ツ 壺木成

なつめ 壺の□入 壺木成

右ハ京六条より越後高田辺江、御婚入之節御出被成候、無故障相勤申候

九月八日 伊予大州 御朱印

一加藤於兔三郎様 御泊り

金五拾疋 御め録

御上様 式人 式百文ツ、

御次通 廿三人 式百文ツ、

御下宿 十七人 百六拾四文ツ、しまや江込

御先触ハ御嶽加納者御座候得共、□□ニ而如此

右之通無故障相勤申候

嘉永七寅九月九日夜

飛州御郡代 御登り

一 福王三郎兵衛様 御泊り

金式朱 御茶代

同壺朱 御幕料

御上様 御老人 貳百文

御次通 拾四人 百五拾文ツ、

御下宿老軒 河内屋

是者列年之通

御上下三人 御旅籠 百五拾文ツ、

人足三拾人

馬 四疋

八日泊

九日昼

九日泊

川辺

大杉

鶴沼

右之通御先触之儀ハ、前日か御当日早朝ニ参着仕候事

御座敷間取

御上段

上老人

二之間

用人老人

茶ノ間

侍三人

□上段

十人

是者六尺中間衆追込ニ御座候

風呂

取湯

壺本

二之間

壺本

新湯殿

壺本

右之通無故障相勤申候

九月朔日

一肥後様 御登り泊り

御判物 御目録なし

御上下 四拾八人

御旅籠 貳百三拾貳文ツ、

御本陣入 廿八人

御下宿 貳軒

拾貳人 河内や

八人 しまや

御先触之儀ハ無之、跡触ニ而不事之御出被 仰付候事

人馬 人足十三人

馬 五疋

風呂

貳之間

壺本

新湯殿

壺本

庭

貳本

大湫宿 鶴沼宿

右之通無故障相勤申候

九月十六日

京都七条通大下

十五日 河渡

一東寺御両

十六日 御嶽宿

御め録

金壺朱

御昼休ニ御座候

法丈様御老人持弁当

御次四人

御旅籠

百三十貳文ツ、

下六人

御旅籠

百文ツ、

六尺五人

膳めし

外ニ 五六人

膳めし

人足馬 五人 貳疋

賃錢先払

右之通無故障相勤申候

嘉永七年寅四月より

大久手

九月廿四日よ 御泊り 鶴沼

一丹州龜山様

御朱印

御供廻り

御上下拾三人

此内八人者上分、五人者日雇方

右八人者老人ニ付式百七拾式文ツ、

日雇五人者老人ニ付百六拾四文ツ、

外ニ 三百文御茶代被下置候

右之通御供廻り御米者御持參不成レ候間、御朱印御改相濟不申候間、御同勢茂の少々成重ニ御座候

寅九月廿五日 関ヶ原 加納 御下り

一福王三郎兵衛様 御昼休

御目録 壹朱

御上下拾五人 上老人 百文

次通用人老人 百文

下通十三人 七十式文ツ、

御手附様御上下三人 上老人 百文

下通式人 七十式文ツ、

是者河内屋至而不啓ニ付、宿差替候旨之事故、下拙隠居屋新座敷をみて仕候、内込申候

右之通無故障相勤申候

九月廿五日 大湫

一江州芦浦 鶴沼

観音寺様

御朱印

御上下五人 上 老人

次下 四人

御め録 三百文

御旅籠 式百五拾文

人足六人

馬 壹疋 御先触

右之通無故障相勤申候

十月三日よ

御徒め附

一安藤伝藏様 本陣 宿老軒

同

一加藤三郎様 脇本陣 宿老軒

関口彦太夫様 初メ めうかや 宿老軒

外ニ三人

御払木錢米出

外ニ貳百文 茶代

御徒め附

御証文人足 貳人

馬 貳疋ツ、

御小人め附

御 馬壹疋ツ、

外ニ賃人足之賃金共

右者大坂御め附、近海江異国船渡し参り候付、前頭通御登り

相勤 申候

十月八日

七日 細久手

一永井肥前守様

八日 鶴沼

御女中

金五拾疋 御め録

菓子献上料 壹朱

御同勢本陣入 八人

内五人女中 三百文ツ、

御役人三人 貳百五拾文ツ、

日雇い宿式軒 十人、九人 百六拾文ツ、

是者殿様之事

一御同人様御宿割上下三人、前々日御出之事、御旅籠御取極、其上

下宿上り帳巻冊、并ニ請書左ニ奉差上御請書之事

一御泊り掛札壹枚御下宿札壹袋、御請取奉申上候、以上

一御旅籠何様何之

一御旅宿之事

右取調之節ハ案文御越可致候而、右拜見之取調候事

十月十一日 細久手 鶴沼

一永井肥前守様 御泊り

御目錄 金壹両也

御本陣入廿六人

御次御供衆

右内七人 日雇旅籠 是者列年之通ニ御座候

残而 拾九人 本旅籠

御旅籠貳百四拾文ツ、

日雇旅籠百六拾文ツ、

御下宿六軒

油紙 七軒内壹軒帳場

御馬 貳疋

米両ニ七八替位

御泊り翌日昼休御逗留ニ付

一金百疋 御昼休

一同貳百疋 是者暫夕御逗留ニ相成候付

彼是御世話掛候□て金子前頭通被下置候

帳場錢七兩入用之処、三ツ割内壹両分天保錢入用

元大坂屋長次郎

路躰錠共入用候所以取調之事

一御め録 よい渡り之事

右之通無故障相勤申候

從是安政元卯年二月ヨリ

二月十五日

備前少将様御泊り 細久手

一松平内藏頭様 伏見屋

御登り 鶴沼泊り

御め録 金千三百疋

御本陣 人数四拾式三人

右之内 本旅籠 拾式三人

御旅籠 廿九人

夜食 廿九人

御旅籠御下宿共 上下 式百文ツ、

油紙 百五拾六文ツ、

御下宿札宿 七拾六軒

内 拾八九軒内込

右内

御札宿ニ而 帳場 壹軒

是者旅籠日雇並

御陸尺宿 三軒 拾式人ツ、

是者御上旅籠ニ而御払 同様式百文ツ、

油紙 八軒入用

右ハ御札宿之内江夫々内込ニ相成申候ニ付、如此前頭八軒之

儀ハ長持、其外御殿荷物持之分計り

御座敷向間取其外□向等左之通ニ御座候

(図あり)

右之通入用ニ付而ハ、奥向茶方煙草方様、南所江御道具触丈ハ逐一入用、壹品茂減方不相成次第ニ付、前以不足之品々ハ買入、屏風などハかり入置候事

右之通承知之上、不調法無之様可致候、尤此御方ハ至而御用多之御方ニ御座候間、雇人左之通

一御番所三方所 久右衛門

入用之事 二兵衛

台所ハ稻荷様 平六

前所 三代藏

繁二郎

下男 藤吉

千左衛門

留右衛門

定藏

文左衛門

下女 三人

外ニおふて

お幸

昼 お幸

油紙札釣

川本 友左衛門

是者本陣手代

家内 四人

ノ廿式人掛り

御関札役人 上下三人

三日前ニ御出之事

御宿割前日御出之事

御上下拾九人

内 上式人 酒肴出し

次三人 同断

下拾四人 酒計り

右肴之儀ハ吸物煎肴切込

ノ三品ニ而

人馬賃錢前日大払、飛脚方より四五両計り

御領分五分増ニ而御通行

問屋め録 百疋

右人馬方より御下渡しニ相成申候

御使并ニ御所用聞等ハ更ニ無御座候

帳場錢うり 拾八両 内 六両 本

六両 問

六両 丸

御献上品之儀ハ、先嘉永六年御通行之節ハ御請有之、百疋為下置候様、此度儀ハ至而御省略中故御請無之候間、亦々此後御通行之節ハ、御道中掛り御賄人本陣詰之御方江、前以願置差上可申候、以上

右之通無故障相勤申候

安政二卯三月三日御泊り 大湫宿

一山門執行代上り

鶴沼宿

延明院様

御め録 百疋 是者定列之通被下置候分

御風敷 壹ツ 是者別段御菓子等差上申候付、右代金として

被下置候分

御上下拾式人 上分三人□人、次通□類勝手次第第二御座

候

内 老 人 御上様 三百文ツ、

次通六人 貳百文ツ、

下通六人 百五拾文ツ、

人馬 人足廿式人

馬 貳疋

先払式人

宿口御迎為羽袴

風呂 御上 御取湯

次通 新湯殿

下通 勝手

右之通無故障相勤申候

安政二卯二月 大久手

一岡御家老 鶴沼宿

御め録 五拾疋

御上下廿四人

上式人私

次通貳百五拾文ツ、

人足 五人

馬 壹疋

御風呂 貳本

御下宿ハなし

御上下之内 上分拾貳人

日雇拾貳人

右之通無故障相勤申候

安政二 三月

一長州様

御判物けんぶつ

御め録なし

御上下三拾四人 但本陣

御旅籠不残 貳百文ツ、

安政二 三月

一丸岡様

御判物

御め録 壹朱

御本陣入 貳拾文

下宿なし

安政二 三月廿二日

一福井様御事

越前様 御小休

御め録 三百疋

御六尺 廿貳人

外ニ め籠持五人

安政二 卯三月廿三日

一京極佐渡守様 御下り

丸龜 御小休 赤坂 太田

御め録 五拾疋

御六尺 拾八人

是者御先列ニ而御迎、其分引等ニ不及候事

人馬出役 鈴村伝五郎

金貳朱 め録

問屋役人江

御め録 五拾疋

人馬 四拾四人

貳拾五疋

御雇之分ハ不残はい賃錢ニ御座候

右相勤申候

安政二 三月廿三日夕 御宿

一加藤於兎三郎様 脇本陣

御判物

御上下 三拾四人

御上分廿人 御旅籠 貳百五拾文ツ、

日雇宿 百六拾四文ツ、

御め録 五拾疋

御下宿 壹軒 十四人 □子分

右ハ下拙方江御尋被下候処、折節京極様御小休、并芸州様家老御泊り由ニ付、御断申上候処、存外京極様御め録少々、并ニ芸州様御め録なし、甚以迷惑仕候間、重而右様之節ハ、先々先着之御方御宿可仕候事、能々心得違無之様可致候

右之通無故障相勤申候

三月廿三日月 垂井 鶴沼

一芸州様御家老 下り

藤田兵庫様

御め録 青銅 五拾銅

御上下式拾五人

本陣貳拾五人

不残貳百廿四文ツ、

御下宿壹軒 十六人

引馬 壹疋 内込

人馬触 五人

三疋

御風呂 三本

右ハ御め録ハ無之候処、御旅籠先宿□□□□ニ付、願ニ依而前頭通頂戴

右之通無故障相勤候

安政二 卯三月廿四日 赤坂 鶴沼

一谷播磨守様 御泊り

御め録 金貳百疋

金五十疋 御殿様

御膳料

御旅籠 上分 貳百拾貳文ツ、

下分 貳百文ツ、

日雇 百六十四文ツ、

御下宿札宿四軒

日雇い宿三軒

御宿割様御上下式人、是者前日御出被成候

人馬 人足 貳拾老人

馬 拾疋

帳場錢 壹兩貳分也

御台所不申立候、是者前頭之印通、本陣賄ひニ御座候、右料ニ而夕式膳付、朝ハなし、昼弁当廿疋

金五拾疋 是者御使等無之ニ付、其段御殿江申上候付、右御答

御陣屋様江御返書等御取次申上候付、右御礼として

被下置候

乍恐御達被申上候御事

今般 谷播磨守様御下り御通行ニ御座候処、今廿四日夜当宿御泊りニ付而ハ 御使等茂可被為有之処、御省略中御取扱其儀無御座候ニ付、兼而被 仰渡之趣其筋御役人中様江申上候処、右御答ニハ御申達之段播磨守江申達候処、被為入御念候御儀難有被致承知、其御筋江御達之儀ハ尚其許より可然頼入□候由ニ被仰聞候間、依之而御取次御役人様御手札壹枚相添御達奉申上候、以上

谷播磨守内

河田 杢

卯三月廿四日

桜井吉兵衛

須加井重五郎様

御陣屋

前頭之通直様下拙より御達奉申候、御陣屋御役人鈴村伝八郎様御承知被遊候

御風呂 三本

雇人 壹人 至而御人少々御座候間、家内ニ而宜敷候

右之通相勤申候

卯四月廿日

久留米様御事

一有馬中務大輔様 御昼休

御め録 三百疋

御下宿なし

御馬宿なし

御本陣支度、可成丈鹿末ニ而七八拾之位、御主人様分、御旅籠四拾人程之御約束之処、大キニ減シ十式三人計り相成申候一御家老御用人様方御支度七人、是者茶方より御約束之事、御旅籠百三拾式文ツ、是者極叮嚀ニ仕候事
一御宿割御上下七人、前々日御関札共御渡し
一人馬賃錢当日名々払
是者先列之通

一金百疋 問屋場江被下置候事

一御六尺 拾三人 膳めし

一外ニ膳めしハなし

一御本陣支度六尺共ノ 三拾人計り

右之通無故障相勤申候

四月廿日御泊り 大湫

一北条様御判物 鶴沼

御め録 貳百文

御上下拾七人 内 五人 貳百五拾文

下拾式人 貳百文ツ、

人馬入用 拾壹人 三疋

風呂 貳本

雇人なし

右之通無故障相勤申候

四月廿一日 美衛寺 伏見

一石河土佐守様 御昼休

御め録 五拾疋

御本陣 貳拾貳人

外ニ 馬宿内込

外ニ 壹疋 分払

惣ノ三拾五六人

御下宿三軒

六人 六尺四人 しま屋

貳人ノ十貳人

手廻り 十人 河内屋

岩角蔵 十五人十一人 むめ屋

同

一御高請役様 脇本陣 米次郎

様

様 御上下三人ツ、

御朱印

人馬 人足 八人

馬 八疋 内貳疋人足替江

但払三拾貳人

前宿御伺先払 貳人上下

貳人羽織袴

御献上物御断ニ付出し不申候事

右之通無故障相勤申候

安政二 卯四月廿六日御泊り

筑州様御家老 赤坂 鷓沼

一櫛橋内膳様

御め録 百疋

外ニ 御め録 壹疋 是者献上物差上申候処、御断ニ付品同同物

御返しニ付、右御挨拶として前頭之通被下

置候

御本陣入廿四人

御旅籠貳百三拾貳文ツ、

但シ 御上様共是者貳人払い

外ニ 七人 本陣入 日雇払

御下宿 三軒 壹番 拾人

貳番 九人

三番 拾六人

雇方 百六拾文ツ、

元ノ

雇方引請

大坂金毘羅町

播摩分 政吉

◎入用 三両 両ニ六六五替

牽馬壹疋 本陣内込

是者式人払

御献上御断ニ付なし

人馬 人足 八人

馬 八疋

先道具 式本

御風呂 四本 御取湯

次通

庭 式本

右御触面拝見より直様孫左衛門見合次第□向ニ遣し候処、早速御聞濟ニ相成御宿仕候、以上

但シ御宿取之儀ハ雇頭衆御出被成候、尤久野様之節ハ、御徒士衆御式人相見江申候

右之通無故障相勤申候

四月廿八日御泊り 久留米様御事

一有馬中務大輔様

御家老 大久手宿 鶴沼宿

有馬右近様 御泊り

御め録 百疋

御本陣入 廿三人

内訳 御上様 壹人 五百四拾八文

次通 拾九人 式百七拾式文ツ、

日雇 三人 百六拾文ツ、

御下宿 式軒 拾壹人

拾式人

人馬触 五疋

六人

毛利様同様江戸

元ノ長府屋重輔

外ニ 壹人

一御献物御断りニ御座候

右之通無故障相勤申候

五月三日登り

一水戸様 大湫

御茶壺 鶴沼

御め録

御旅籠 式百疋

御上下 拾人 内壹人増

右ニ白銀壹匁五分頂戴仕候、尤列年之通

人馬 賃人足 八人

馬 壹疋 但乗輕尻

右ハ西丸様無御座候付、御茶壺三釣り候間、前頭之通人馬相印申候

但シ当年儀壹人増有之候処、前頭白銀御差出しニ不相成候付、

其段 御同心様江申上候処、御め録様江御達被下候処、失念之

趣ニ而、前頭之通跡より被下置候付、此処ニ相印申置候

右之通無故障相勤申候

安政二卯五月四日

雲州様

一松平出羽守様 御小休 太田・赤坂

御め録 貳百疋

膳めし 陸尺計り 拾八人

外用意ニ不及候事

御雇人馬 貳分少増ニ而

人足百拾四人

馬 拾貳疋

右者御先列之儀ニ被 仰付候間御請申上候処、助郷より大入組ニ相成、以後御通行之節ハ前頭貳分五厘、次ニ而ハ不行届候ニ付、急度心得置候事

人馬 人足 貳拾五人

馬 貳拾五疋 御定賃錢

御雇 人足 百三拾貳人

馬 拾六疋

一金百疋 問屋場江

はいさい

御幕朽ニ而御座候

右之通無故障相勤申候

安政二 五月四日

加納

一永井肥前守様 御小休昼 御嶽

金百疋 御め録

御旅籠 拾貳人

是者定列之通

六尺衆棒頭共 九人

外ニ 供廻り手廻り共ノ拾人計り

但シ是者不同之事

御先番茶道方、御先夫より御台所方五六人追々ニ相見へ、御女中様前日御出之事

右之通無故障相勤申候

安政二 五月四日

大湫 鶴沼

一市橋下総守様 御泊り

御め録 三百疋

外ニ 御節句ニ付卷六包献上仕候処

金 五拾疋 御献上料

御本陣入 三拾九人

内 上分 拾人 貳百廿文ツ、

中通 五人 貳百文ツ、

下通 四人 百八拾文ツ、

日雇 九人 百五拾八文ツ、

札宿 御下宿七軒

御用人 十貳人 老軒 河内屋

御め附

御皆師 拾壹人 老軒 きぬ屋

御中小姓 拾老人 壹軒 しま屋
御徒士 拾人 壹軒 越後屋

御馬宿 馬壹疋

人五人 壹軒 むめや

道中方 拾三人 壹軒 立花や

右何れ茂日雇之者入□之□御座候、以上

帳ハ 壹軒 蛭子や

人数拾式人計り

外ニ 壹番 拾人 豊屋

貳番 拾人 平三郎

三番 八人 啓助

右日雇旅籠共ニ殿様附共本陣大払◎貳三両入用

右者御宿割様御当日暫く先江御出候付、下宿向夫々手廻し出来兼候
間前頭印置候付、此後通行節ハ右記録ニ相当り夫々用心之事

人馬 人足 貳拾老人

馬 拾六疋

一御献上之儀五月四日ニ付、御節句故相济候得共、平日ハ中々不相

济候事

一御台所御肴等入用意不及候事

一御台所役人衆用意仕候而茂宜敷候、御引揚□□無御座候

一人馬賃錢当日大払

一御旅籠大払本陣江内込之事

右之通無故障相勤申候

安政二卯五月七日 垂井

一酒井修理太夫様 鶴沼

御家老

酒井豊後様 御泊り

御め録 百疋

御本陣入 廿老人

御旅籠 貳百廿四文ツ、

日雇方 拾老人 百七拾式文ツ、

御宿□馬なし

御先触 人足 拾三人

馬 三疋

御風呂三本 取湯 新湯殿 庭湯

右者御途中迄飛脚差出候処、早速御聞濟ニ相成申候、尤此御方御
先列候宿江御入込ニ相成候等之事故、重而御通行之節ハ急度右勤
向之儀被申上候而飛脚差出し候事

右之通無故障相勤申候

安政二卯五月十一日 伏見 河渡

一仙石讚岐守様 御小休昼

金百疋 御め録

何れ茂膳めし 上分 貳拾五六人

六尺 拾三人

外ニ臨時 拾人

御上分御膳めし分ハ、肴付候而茂御買上ニ相成、御向至而間一度

人馬 式拾五人

式拾五疋

一御宿割御上下三人様、前日御出御約束之事

一御台所立申候

一此御方重而御通行之節ハ、別段飛脚等ニハ不及候事

右之通無故障相勤申候

安政二卯五月十一日 加納 御竹

一三浦志摩守様 御少休昼 脇本陣

金百疋 御め録

御六尺 拾式人

御座敷向き御約束ハ無御座候得共、拾八九人膳めし

御次向拾八九人

右者下拙方江御昼休被仰付候処、三浦様与仙石様与差合ニ相成候

処、右三浦様儀ハ御人方江御案内仕、仙石様御請申上候

一御宿割様前日御上下三人御出被成候

一人馬入用 式拾五人 式拾五疋

大弘前日

右之通無故障相勤申候

右之通無故障相勤申候

安政二卯五月十一日 大湫

一分部若狭守様 御泊り 鶴沼

御め録 式百五拾疋

外ニ 金五拾疋 是者尾州様御使為取扱御礼ニ被下置候

是者御賄方ニ不抱、別段御祐筆方より御渡し被下候

此節御使番

神尾藤五郎様御勤

御上下拾式人

内六人ハ当宿雇

右之御方江御め録左之通

一金三百疋 神尾様江

一同 百疋 御侍兩人

一同 百疋 惣供江

一同五拾疋 御本陣江

是者尤前頭ニ而印有之

一御本陣入 五拾人

御上分 廿七人

御次通下上 廿九人

一御札宿八軒 四人位より拾三人位迄

一油紙八軒 但シ帳ハ共

一御旅籠 御上分 式百五拾文ツ、

御下通 式百文ツ、

一油紙旅籠 百六拾文ツ、

一 御旅籠大払 式三兩入用
一人馬賃銭 当日大払

一 御宿割前日御上下式人御越被成、御旅籠之儀ハ当日極メ、御関札并下宿札ハ其節御渡し相成申候

一 御先触 式拾壹人

馬拾三疋

御使御勤向并ニ町合取引之め録左之通

一 御使式人御門より御入込ニ相成候処、出迎下座敷迄御出無之、老
人御玄関中程上御給人衆御出迎之事、夫より三之間江御案内いた
し候得者、御茶、たはこ盆、御台子方より御差出し、其上御用人
衆御出入被成、夫より若狭守様江御被届ケニ相成候処、御同人様
直様御殿入替り御座敷ニ而御合有之、御用向き御使御口上之趣相
濟候、御泊之節ハ其座敷迄御出立、次座敷置三畳之目位迄若狭守
様御見送り御成被成候、尤御使御歸り之節ハ、御用人衆玄関迄給
人衆ハ送り節御座敷迄御出之事

一 御使婦候御門前ニ而相濟申候

一 若狭守様御持衣之儀ハ、羽織袴御着用

一 御使者婦候 口上手控之写

私儀在所江之御暇被 仰出罷登り、今晚当駅泊江以 御使者ヲ被仰
下忝仕合奉存候、右御札御家司申上宜御執成可被下候様頼入存候

五月二日 分部若狭守使者

細野蔵司

右之御方先年之留記更ニ無御座候付、出迎并ニ送り等之儀ハ江戸表
振合を以御取扱、少々之儀ハ何れ茂外様振合以本陣江御尋ニ相成候
付、外様之振合本陣より蒙一申上、夫々御差図申上候付、其通り御

仕向ニ相成、御都合宜敷候、此後 殿御方ニ不限名古屋之御使に有
之候節ハ、右振合以御取扱可仕候事

右之通無故障相勤申候

安政二卯五月十四日

禁裏御附

長谷川肥前守様 御二男

一長谷川鉦蔵様 下り 御泊り 赤坂

但シ 御家内一統様 鶴沼

金百疋 御め録

御本陣入 廿六人

内訳 一三人御上様 御旅籠三百文ツ、

一中通拾四人様 同式百文ツ、

一下通九人 同百六拾四文ツ、

一御下宿札宿三軒 米二郎

河内屋

きぬ屋

一下宿油紙式軒 しま屋

百三拾式文ツ、 豊屋

一御献上 菊露三合ツ、

御菓子壺森

代金三匁計り

右献上仕候処、代料老文茂無御座候間、重而御通行之
節ハ、登り旦那様御通行之節よく、尋合御献上仕候事

書入れ

御先触荷物 人馬 五拾三人

馬 五疋

是者御宿割ニ而ハなし

当日 先触 人足 五拾貳人

馬 九疋

右何れ茂先払

〔尤此段旦那様御二男之事故、何れ茂御役人之兼にん計りニ

而取計候付候処、此節禁裏附而追々金子□払ニ而□候所、

役人金仕□御召連被遊候付、其人至而かるき人故如此献上

料無之候〕

〔 書 入 れ 〕

御め録 百疋

御上下三拾五人

上 内六人 御旅籠 貳百六拾四文

中通拾七人 同 貳百五拾文ツ、

日雇拾貳人 同 百五拾六文

ノ

前日参り申候

先触 人足四人 但シ御出立前之日御差立為成

馬 壹疋 候付、事ニ夜露明ニ相成茂雜

西田直記様 計候、以上

外ニ貳人計

右ハ前以御泊り宿江ハ御本陣江御請印触参り候事、尤此度之儀ハ

跡触ニ相成申候間、以後通行之節ハ心得置候事

一献上差不出候事、但シ其節振合ニ寄献上差出申候而茂宜敷事

右之通り無故障相勤申候

安政二卯五月廿三日 加納 鶴沼昼

一松平伯耆守様 御下り 御竹泊り

丹後宮津 御昼休

御目録 貳疋

御旅籠 五六人様 百廿四文ツ、

奥向膳めし 拾人程

六尺 拾人 膳めし

ノ廿六人

外ニ拾貳人計用意

右之通無故障相勤申候

安政二卯五月十六日 讚岐丸亀

一京極佐渡守様 大湫

御朱印 鶴沼

一御宿割御上下三人 御昼之節ハ酒肴出し不申候、前日御出事

尤御昼支度之節ハ御宿割より支度

一用心方仰付無之候

一当日人馬 人足式人

馬 七疋 大扨

一当日臨時入用 人足式拾式人

馬 拾疋

右之通無故障相勤申候

伯耆守様江付分

一御昼之節ハ尾州様御使等無御座、御竹宿御泊り江御出事

五月廿六日 御下向之節

一水戸様 赤坂

御茶壺 鶴沼

御め録 百文

旅籠 百文

外ニ 壺匁五分 壺人増有之候ニ付被下置候

うどん六升仕候

一当年釣物御下り節ハ三釣りに相成申候、尤壺荷ハ小さキ方

酒肴下り 玉子吸物、青鯖差身、なすひくづ煎

三品

右三座敷ニ出し

此節廿式日 う沼出立

出入 廿四日目当宿江御帰り

右之通無故障相勤申候

各務原市資料調査報告書第四十二号

旧中山道鵜沼宿本陣桜井家文書 VII

平成二十九年三月

編集 各務原市歴史民俗資料館

〒519-0331 岐阜県各務原市鵜沼西町一―一六―三

発行 各務原市

〒514-8555 岐阜県各務原市那加桜町一―六九

TEL 〇五八―三三三―一一一〇代

印刷 山興印刷株式会社

